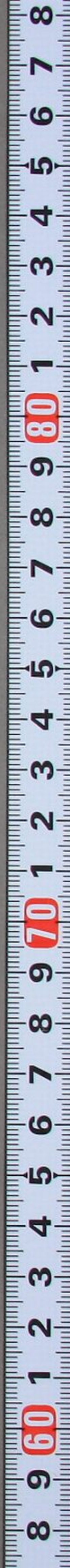




紫式部日記註釋

二





紫式部口記秋二の事

御母ちかくさうぬよしとけりちをばふへし
しるさ葉の杯をたつむいばうしてまわさく
つところあるとさへくにはうゑたてたるを
さばけおぬいさうぬいさうぬいさうぬい

御母のこのちをばふなりせにぬいさうぬい
しるさといふをさうしうゑたてたるをい
し老と退きぬいさうぬいさうぬい
たつとさうぬいさうぬいさうぬい
菊為制類齡をたつしゆらうぬいさうぬい

わらわはしるるをやりてあまふまにゆれと身はいとまゝにうらとねひよ
せうは

いさにはナリジテトウジテといふ意にて、
（よまふふよまふふをなす）
世中のねねのひにうつるもひのうけなすも、
いふほどに、水もきき、
うまはあふとなくふもてをてせをさるゝいいたくも、
いそいたくも、
いさなりとはいふ家なり、
なけふもつけてわするせをいふといふ、
これ奇ふ哉、

しらばよといまう、
さほをいふおひよ、
わひよせうつとをり

ふ少お君のうみねこそた、
又會はま、
んらうかうにたにた、
濃染紙

雲をたくなむ、
くはつんともなほほに

ことわりれ、
はとくたつてのは、
○紫式ア釈卷三

略邊奏樂と云くたり。拙きもの、莫う極（か）り。そのあつしつとてよ
。女房とまれば、おのちとて。あつしつ、新の、派い、あつしつ、
を脱せり。文字は、あつしつ、あつしつ、あつしつ、

あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、

あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、

あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、

あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、
あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、あつしつ、

正。袴。足。襪。を。は。き。さ。す。此。下。の。足。を。た。さ。せ。た。ひ。て。は。く。う。き。に。は。り。
 儀。正。は。今。世。に。も。ひ。び。を。入。儀。正。と。あ。ま。た。め。れ。よ。皆。と。ら。に。た。ぬ。と。な。り。
 さ。れ。を。と。く。く。襪。跡。を。と。引。け。り。ゆ。へ。て。は。あ。ら。じ。な。ん。内。袴。は。の。は。
 を。新。か。に。な。し。ま。り。の。に。は。も。新。か。に。な。し。ま。し。
 を。あ。つ。さ。い。と。つ。き。へ。一。足。す。さ。し。て。は。こ。一。足。も。も。た。こ。ま。ふ。ひ。と。ま。り。
 一。次。甲。お。れ。え。う。う。と。と。う。て。内。袴。に。つ。た。ふ。

を。あ。つ。さ。い。を。各。府。の。官。人。さ。つ。き。へ。一。次。に。ひ。が。ま。り。へ。は。り。め。き。
 と。の。ま。う。と。同。く。武。官。の。幸。は。さ。ひ。へ。り。れ。を。か。ま。ふ。酒。を。い。ふ。又。延
 喜。近。衛。式。に。九。供。奉。行。幸。大。將。以。下。少。將。以。上。幸。達。着。摺。衣。幸。並。着
 皂。綾。横。刀。弓。箭。行。騰。草。鞋。幸。近。除。行。騰。着。靴。將。監。以。下。府。生。以。上。並。着。皂

綾。布。衫。白。布。帶。横。刀。弓。箭。行。騰。麻。鞋。幸。近。以。蒲。脛。中。代。行。騰。近。衛。皂。綾。布。
 摺。布。衫。白。布。帶。横。刀。弓。箭。蒲。脛。中。麻。鞋。云々。と。い。は。た。こ。は。は。衣
 袴。の。う。へ。を。ま。り。へ。り。と。い。ふ。際。え。く。さ。え。う。う。一。次。は。う。て。ま。り。へ。り。
 つ。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。
 と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。
 え。な。し。と。同。く。一。次。に。さ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。
 た。さ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。
 付。け。え。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。
 づ。い。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。と。い。ふ。ま。り。へ。り。

一とくちくしよれたるやうがれこち申きたるやうに池の水をなごら
 せしむらひしにうへに序あまたたつちりけり。九系命
 命のさむらひの御心いほしうさかえはうき。命はしよひてこ
 ら

池の水に流らうとくちくしよれたるやうに池の水をなごら
 たけしうとくちくしよれたるやうに池の水をなごら
 一とくちくしよれたるやうがれこち申きたるやうに池の水をなごら
 せしむらひしにうへに序あまたたつちりけり。九系命
 命のさむらひの御心いほしうさかえはうき。命はしよひてこ
 ら

ちくちくしよれたるやうがれこち申きたるやうに池の水をなごら
 せしむらひしにうへに序あまたたつちりけり。九系命
 命のさむらひの御心いほしうさかえはうき。命はしよひてこ
 ら

一とくちくしよれたるやうがれこち申きたるやうに池の水をなごら
 せしむらひしにうへに序あまたたつちりけり。九系命
 命のさむらひの御心いほしうさかえはうき。命はしよひてこ
 ら

一とくちくしよれたるやうがれこち申きたるやうに池の水をなごら
 せしむらひしにうへに序あまたたつちりけり。九系命
 命のさむらひの御心いほしうさかえはうき。命はしよひてこ
 ら

なりとなり。うちほに。おをうちほに。わたとて。いふなり。

此亦これあけひを。ゆりて。いふたき。うきに。おまきの。あて。うき。うき。うき。

元治顯光公 初のたも。万倉らく。いすに。あひて。なん。いふ。うき。うき。うき。

元治公任卿のたも。万倉らく。お秋。あし。と。ちか。うき。うき。うき。

此おほい。あま。いふ。たくの。り。あま。な。と。い。あ。ほ。く。あ。と。い。い。い。い。い。

うき。け。うき。うき。うき。おを。と。あ。ひ。た。い。うき。うき。うき。うき。うき。

ら。と。た。い。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

い。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

と。なり。と。い。あ。ま。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。

り。あ。ま。い。

い。あ。ま。い。
い。あ。ま。い。
て。注。を。う。り。ほ。を。あ。け。に。あ。ま。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
四位。下。文。室。朝。臣。秋。津。卒。云。監督。非。遠。最。是。其。人。也。亦。論。
武。藝。足。称。驍。将。但。在。飲。酒。席。似。非。大。夫。每。至。酒。三。四。杯。必。有。
醉。泣。之。癖。故。也。な。も。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
い。
い。
を。あ。ま。い。
あ。ま。い。

右未の巻、中又去まはして、こたひ別書にたうり、此の巻、凡の巻をいふの別書にたうり
齊作を公任の二人とも別書にたうり、此の巻、凡の巻をいふの別書にたうり
まう、此巻は、凡の巻をいふの別書にたうり
すけ、こたひ別書の傍に、凡の巻をいふの別書にたうり
中又権亮持亮をいふ、凡の巻をいふの別書にたうり
持亮を、凡の巻をいふの別書にたうり
いふ、凡の巻をいふの別書にたうり
事なを、凡の巻をいふの別書にたうり
こたひ、凡の巻をいふの別書にたうり
まは、凡の巻をいふの別書にたうり

こたひ、凡の巻をいふの別書にたうり
まは、凡の巻をいふの別書にたうり
こたひ、凡の巻をいふの別書にたうり
まは、凡の巻をいふの別書にたうり
こたひ、凡の巻をいふの別書にたうり
まは、凡の巻をいふの別書にたうり
こたひ、凡の巻をいふの別書にたうり
まは、凡の巻をいふの別書にたうり
こたひ、凡の巻をいふの別書にたうり
まは、凡の巻をいふの別書にたうり

にほひのくまのこゝろに

くはて月とあそびしころに源経頼あふにあひてうまれたるよちい

ちかきとあそびしころにあふにあひてうまれたるよちい

せまうまはこゝろにあひてうまれたるよちい

うてあひてうまれたるよちい

あふにあひてうまれたるよちい

なほ一とあひてうまれたるよちい

イナル礼とあひてうまれたるよちい

此序ゆきを

経考卿幸ねは中れまによてほこあひてうまれたるよちい

いといにあまのこゝろに

れはあまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

昨々我出...
 子細をよめ...
 文傍に...
 送り...
 なり...
 い...
 さい...
 け...
 は...

ちま...
 ろ...

々のたふ...
 ちと...
 ら...
 申...

へ...
 下...
 り...
 下...

申ひなと一たり

東三條宮家御孫御子孫は皇太后宮女に

ニヤカヤノと云ふ名を以て申ひしなり

此は發あけたるまゝなり

この文の御書を以て大納言を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

いれしと云ふ御書の御書を以てしにすて

おしやうし

おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、

おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、

おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、

おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、

おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、

おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、おらひいふ十日は儀式は餅にて、若文に著し、

わ。ま。ま。お。れ。り。と。渡。を。し。て。ん。ね。い。一。物。は。一。湖。月。女。に。抽。き。も。ら。ふ。一。情。の。海
一。と。ま。と。あ。の。的。物。忌。と。う。字。を。ま。て。後。藤。を。に。け。て。あ。つ。ま。は。と。の。せ。い。
つ。い。む。と。さ。う。と。え。い。う。一。ま。の。こ。の。め。れ。う。と。い。い。河。海。女。に。と。ま。一。こ。の。こ。ろ
此。書。こ。い。と。あ。ま。た。是。な。と。さ。う。一。い。の。め。い。中。ま。の。な。い。一。ま。の。後。藤。の。ま。と
か。り。一。ま。の。一。め。い。つ。中。ま。の。な。い。一。め。い。の。ま。を。後。藤。ひ。て。お。れ。し。て。お。れ。は。
人。の。お。ま。に。ま。う。後。藤。ひ。て。ま。の。茶。に。て。合。を。後。藤。ま。り。ひ。つ。ま。一。は。後。藤。を
と。ま。橋。を。ま。り。一。初。花。を。に。え。ま。う。ら。の。ま。の。後。藤。を。う。に。て。茶。の。し。ま。と。一。ま。の。海
て。か。後。藤。う。と。つ。つ。を。ま。れ。え。ば。ら。を。後。藤。ひ。に。や。一。ま。の。ま。の。に。い。て。ま。の。ま。
中。ま。と。ま。に。ま。ま。い。脱。な。る。な。り
女。房。ふ。た。一。い。わ。か。ま。い。さ。れ。たり。一。い。ま。ま。を。後。藤。ひ。お。あ。つ。て。か。後。藤。う。人。の。

よりつゝまにあけ後一夫枕を君一守お君一少ね君一文内侍とわ後う

持うもふあなりてまいたよと東の間にあつてわな人とい東の間に藤

をあげぬの間にあつてわな人といぬの間にあつてまをいふ

顯光公

右のねともうて一五あ丁は後藤らひひをたちこたは後藤ひきたるなりとつ

さうらふとあつてあふとあつてうたをれよのそつたをまも後藤う一竹は郷

うらけとつて後藤をなふして後藤う一まのうたひてはあ後藤ひさ福をうりま

れといはなとつて

ほころびをほころぞう一なるをうよひさならは引断をうまなまをいふ

の齡に感うすぎたをうつにうらふ女房をものそりあふとあつて

ハ女房ともれな麻をう一これ大志の感うまをて秘ひ後藤にあらはりに

おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに

おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに

おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに

おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに
おぼろけをぬかすに

一に...は...は...の中...
二に...
三に...
四に...
五に...
六に...
七に...
八に...
九に...
十に...

一に...は...は...の中...
二に...
三に...
四に...
五に...
六に...
七に...
八に...
九に...
十に...

のたはらぬともあれとて。さて三任のすけは。信隆、幸おれ、若官にて。あ同一人
候中、れ、子に、あ、う、く、行、成、々、と、な、れ、と、候、う、ら、て、れ、は、交、成、幸、お、ま、
依、一、と、し、い、あ、四、身、背、の、前、に、若、官、お、ま、と、り、ま、の、を、く、れ、信、隆、に、
お、と、ゆ、と、交、成、々、と、い、ふ、と、い、ふ、に、出、さ、う、と、一、れ、は、の、ま、の、前、に、
を、ま、し、一、と、い、ふ、交、成、は、幸、の、所、子、を、れ、い、又、大、臣、の、れ、を、す、ぬ、お、ら、う、と、
り、し、て、た、う、な、い、と、い、ふ、は、な、い、一、れ、光、若、臣、の、な、め、は、え、信、隆、な、り、ま、い、
な、れ、一、れ、人、を、い、席、又、の、忠、義、公、の、叔、又、の、公、を、ま、り、う、と、い、ふ、大、臣、に、
れ、う、中、臣、を、ま、り、交、成、々、の、い、ま、の、信、隆、幸、お、ま、う、は、て、れ、え、す、を、ま、り、
信、隆、な、う、と、い、ふ、

齊信卿
中納言すみの偏のすゝらめとにうて。ま、教のれを、ひこーろひ、す、に、ら、れ

たもふれ、丁、志、も、度、の、こ、ま、に、

ひこーろひ、引、り、ア、フ、は、て、ま、教、の、お、ま、と、お、を、引、り、ア、フ、タ、う、の、こ、
ま、に、ハ、制、一、後、も、あ、な、う、

れ、ま、ろ、一、と、い、ふ、東、の、い、ま、ひ、を、め、り、と、え、て、こ、と、ま、つ、信、小、室、お、若、に、ひ、ま、ハ、
て、て、の、う、れ、ま、ん、と、に、に、ひ、ん、り、な、れ、に、と、の、ま、ん、ら、う、幸、お、中、納、言、と、い、ま、し、
さ、う、一、け、ま、は、あ、う、と、い、ふ、う、の、う、一、ろ、お、わ、れ、な、を、と、し、ま、う、と、い、ふ、
ひ、て、や、り、な、う、と、い、ふ、入、り、ま、ま、後、う、と、い、ふ、う、つ、け、う、信、隆、は、
ま、ん、と、の、信、を、い、い、と、く、れ、ま、ろ、一、ま、れ、は、ま、こ、申、

い、ま、の、信、隆、の、あ、う、と、い、ふ、や、ら、と、せ、り、あ、は、う、ひ、ま、一、と、若、う、と、い、ふ、を、は、
あ、ま、れ、つ、う、と、い、ふ、う、れ、と、い、ふ、い、ま、う、う、せ、ま、ま、後、ひ、て、い、ま、う、の、信、を、せ、た、

あーたつれをひーあれは若う代のちをばたはうふとてん
こはくもひはうもあちにもたほーけーのちをばたはいとあせれふこ
とさうなり

ねさうーさうハハ碎ハ係りいーくは、はうさうのあうーさうはとな
まじことさういさ水の儀式のもつなりさうさうさうハはなはなはな
道長公のよーのけさてはうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
はうさうさうハハ教ゆてさうさうさうの奇さて初めはナニミドクミテと
しよさしてつらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ハはうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とすれともナニミドクミテさうさうさうさうさうさうさうさうさう
なり又初めにさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
初めにさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
はて道長公のやうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
抄に唐韻云鶴音零楊氏抄云多豆今按鶴別名也と云てたつれさうさ
奇れさうは枚さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
てこれさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
も、後拾遺集に云々たつれさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あーたつれさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

いさあーはつれ勤まあれうし。とけひ程ふ意こもれう。決めなげーけこの
 二箇なれはと出るをふはあーいりうまはうて受申。まはうはッレホドなり。
 ねほーけこの二箇なれをい。まはあまの二美意の備なれをといふ意
 なく。されとあれ。そのあふらふらふてりうまあつてい。あーめーけこ
 二のあまふをうたひは程ひた。一とまあ申いとあをれに。とさうなり
 といさや。はあーめーたはあう。二箇をえて。イツノ感ニテ。オダウリナリと
 あつなり。この程にうてとあ。いれらまはれり。いさや。一。申にま
 と本あねい。とさうたなくは。いあ。一。うまはれう。初花申に。い。まひ
 うねまろー。たれと。とさたり

けふくめてまやー。ささえ程ふに。そい。らうつれううと。備さ。そ程ふ。めれ

お代とあえ備ーく。四申く。す意程ふに。そ。ぬあ。ちになふ。おまひつ。い。う
 けふと。う。く。めて。ま。や。一。程ふ。を。謀。か。ひ。て。と。さ。う。う。ま。は。れ。り。い。さ。や。一。申
 程ふと。ま。や。一。さ。さ。え。程ふ。につ。けて。ま。は。申。お。ろ。ま。れ。た。ま。は。れ。て。揚。と。い。ふ。
 あえ備ーく。は。ア。カ。リ。ま。う。な。り。四。り。末。若。ま。ろ。な。り。う。ね。な。ぬ。い。式。初。う
 ま。う。う。れ。う。か。う。お。ひ。つ。け。ら。い。け。ら。い。四。り。末。若。め。た。ま。は。れ。た。ま。は。れ。今。う
 お。ひ。つ。け。ら。い。な。り

送長句

まのたき。さ。さ。一。め。に。や。つ。う。備。つ。け。う。と。我。ほ。あ。一。程。ひ。て。ま。の。四。つ。に。そ。備。ろ
 ま。う。う。に。備。ろ。む。す。め。あ。て。ま。ま。ろ。く。た。う。ま。ま。た。ま。を。備。ら。ま。は。い。あり。と
 お。ひ。て。わ。く。ひ。程。ふ。め。り。ら。ん。を。と。は。ま。た。う。う。と。た。め。ひ。た。め。り。と。た。え。ふ
 け。さ。ア。え。程。ふ。ま。あ。ら。ぬ。さ。い。ぬ。思。ひ。乃。備。な。れ。な。う。と。四。申。ま。る。こ。と。を。な。け。れ

らうせにまゝに倫子れあをいし海を渡りまゝにハ眼を流さ
とて申されれをいしまは凡九丁此内をいしせ流るなりまゝに申文
れあをいしおほしきいんとていしこれぞ程たをいしなりなめいしはブレイチブ
サホウナとらふ名なり。おやのいし子とらふもの親乃ういしつていしなりて申文
なとにもたせ流るなれば親申るに申るいしとけきとなり。これういし
まカソレホイなとらういしとていしは申るおやもいしとていしなり。いし
いし今いしと申るいし上にはいしとていしは申るいしとていしなり。いし
十日れをいしなりとていしなり

いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。

いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。
いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。いしとていしなり。

かりありていふに言ふれしと相違はらあつて、我道ありて二
日ありあつてあやにふとふ言ふる。一もといふは、あやにふあつたり。
言ひも此のフルホトシクイタクフレリといふ言ふなり。
伏見御殿は大後にも先帝を祀りし所を、御所の君にて祀る所を
此の所の御殿申させ給ふに、此の式々をわたり給ふ。予々を、九条屋に
あつてを給ひて、人々あつて、さうして、さうなせ給ふついでに、冷泉院の
らに、此の御殿一なるほど、さうなすといふと、わし中なるに、九条
屋、こらひ乃す、さうくつう、御つんと、わしを、御に、此の、御水、後
の、言を、こと、わしに、は、さう、六、七、こと、さう、なせ、給ひ、け、に、た、い
て、さ、此、あ、つ、と、あ、つ、人、あ、つ、え、い、ら、い、て、さ、い、も、て、さ、や、一、給ひ、さ、い、ら、い

つと、い、ま、一、と、わ、し、一、な、り、け、い、は、に、あ、つ、と、一、御、言、を、大、後、を、御、とい、て
さ、な、は、な、な、一、よ、い、て、さ、な、い、と、い、ふ、言、を、御、下、に、言、を、い、ら、い、て、さ、い
一、と、御、を、な、さ、い、ま、い、一、く、に、な、さ、給、ふ、と、い、ふ、の、言、を、い、ら、い、と、い、ふ、
言、を、い、ら、い、言、を、御、下、に、い、ら、い、
又、と、こ、ろ、を、な、り、あ、つ、の、あ、つ、ち、を、い、ら、い、と、い、ふ、御、つ、う、な、い、と、い、て、
こ、ろ、つ、れ、に、な、あ、あ、つ、一、と、い、ふ、言、を、御、下、に、言、を、い、ら、い、と、い、ふ、
一、と、御、を、な、さ、い、ま、い、一、と、い、ふ、の、言、を、御、下、に、言、を、い、ら、い、と、い、ふ、
と、い、ら、い、
又、と、こ、ろ、を、な、り、あ、つ、の、あ、つ、ち、を、い、ら、い、と、い、ふ、御、つ、う、な、い、と、い、て、
こ、ろ、つ、れ、に、な、あ、あ、つ、一、と、い、ふ、言、を、御、下、に、言、を、い、ら、い、と、い、ふ、
一、と、御、を、な、さ、い、ま、い、一、と、い、ふ、の、言、を、御、下、に、言、を、い、ら、い、と、い、ふ、
と、い、ら、い、
〇紫式部 卷二
〇卅五

けあるをうけし満ちり。名やめえきせきとま。と種をいれてんかへ。さ
きより家畜まで交れし満ちり。これまた四葉はうりうりな満ち
文章にういへ満ちり。これと善秋にゆたかきつに。たのつう。交ゆこも
けり。さて富貴をえてれえに。空けり。さ。月形勢を。これとてひつらに
こめてはり。地の崎りにけり。とさうい。時を。これとては。とさうい
ともあされ。とさうい。とさうい。これとてひつらに。おんかを下。と
けし満ちりに。と申

い。は。や。い。に。と。さ。う。ゆ。さ。名。れ。ん。ほ。ほ。は。は。や。さ。さ。り。お。れ。う。さ。さ。り。お。れ。果
う。さ。な。と。に。つ。け。て。う。ち。さ。な。さ。な。人。な。さ。い。の。さ。は。あ。あ。れ。た。さ。さ。い。と。す
一。事。と。ほ。さ。た。ち。う。と。さ。さ。た。つ。て。さ。い。け。を。さ。さ。れ。を。さ。さ。れ。に。あ。り

一。ら。い。は。ち。ち。と。に。つ。け。て。は。さ。さ。と。さ。う。せ。に。お。ん。か。に。さ。さ。れ。た。お。れ。を
う。さ。は。一。あ。た。り。て。さ。う。い。と。さ。い。の。さ。は。は。さ。り。お。れ。た。さ。い。を。は
も。れ。こ。さ。と。さ。い。く。た。め。い。と。さ。い。う。さ。い

い。は。や。い。に。と。さ。う。い。と。り。ま。さ。あ。さ。さ。む。ん。さ。う。や。さ。さ。を。れ。い。ん。ほ
お。く。さ。い。れ。さ。う。い。れ。な。れ。さ。う。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。
う。れ。い。の。文。を。た。い。か。さ。う。や。り。す。れ。さ。う。い。れ。一。事。と。ほ。さ。さ。い。の。同。い。ん。さ。う
人。を。た。さ。さ。さ。あ。さ。う。ほ。て。も。後。り。を。さ。さ。さ。て。い。れ。や。れ。り。と。さ。う。これ。を。は
同。い。ん。さ。う。人。を。た。い。か。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。
ツ。モ。ナ。イ。コ。ト。に。は。さ。れ。さ。う。さ。れ。お。れ。さ。う。な。と。を。り。一。世。に。あ。り。と。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。
う。一。を。卑。下。し。て。い。れ。さ。う。い。れ。た。さ。い。一。係。れ。り。ま。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。う。い。れ。さ。

わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
うりけとはいつを月をこめてのうれたまをとなうはめてサウキアとい
ふほどをさす。けこせとなくいつたときひらきよきさほこは乃
まをうたまひいひききくはさしづかひにわが心はさしづかひに
ゆらぎにおさうをさしてえいこまにヤウはなれほにあさしづかひに
かまへんをさす。けこせとなくいつたときひらきよきさほこは乃
わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
うりけとはいつを月をこめてのうれたまをとなうはめてサウキアとい
ふほどをさす。けこせとなくいつたときひらきよきさほこは乃
まをうたまひいひききくはさしづかひにわが心はさしづかひに

にえあしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
かまへんをさす。けこせとなくいつたときひらきよきさほこは乃
うりけとはいつを月をこめてのうれたまをとなうはめてサウキアとい
ひまたわが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに
わが心はさしづかひにわが心はさしづかひにわが心はさしづかひに

かゝる人々の心は我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに

此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに
此の世に於ては我を頼むべしと云ふ事を知る事なり。然るに

は式ありふたはなまをれすもふうに伴ふ事をいふたけきくおひ
 てまはれあきくまであはるる面をはあせをさうやあひてしつわをいひ
 ちうよをいふに視格ををににわいす入て視格をたふひて
 うとすう。能くもくはまにのままにらなるにけさの経をせ
 なくさきいふやあきへけたさう。さう経をせせといふにたえ
 うまうそれとさうとはあはれいといふまはるう

いづるは十七日かくいぬのとれたとすつれとせうくおふけぬ

中ま内書にひくせ注さう。日本記畧に十月十七日甲戌中宮入御内
 裏本宮設饗饌也食ともそなり

となうみあけいわる人世よ人世のほらにこそあはれいんうれもて

ひうーれいさーにうち女房をも十よ人をみのひさーれつ備とへたさう
 けのほらにもあれしつをいれあはれさうにといふまはるう
 ち女房いまは内裏女房さう。いすへれたものをいひ素水をかへー
 けーにそまらぞんしれ

中まの楽にめいといふさうをいひだうく。依程の宣をさう
 をいひてまは中まとさうとてさうに乗り注さう

いとけの御車にとりさう補のめいさうまいといふまはるうこれ
 論子と若文と乳母のお補と三人素毛御座車さう

大納言守お茶さう注さうに

これ二人ニカ子令つらう御車さう

つるはる馬にこそねえ内侍

これぞ二人なり

つらにうほの中ねとけりしなをさしんくしとけりたうとせひたうしとてあ
なとくしとてさうほちうとほせりしうたぬいけりしと

これに馬中ねと或アとありとろと人とは或アさむつ備うぬ中にも又
ゆよに岸本、まにすつてかたかとももこれさううにしれとこれとあひの
こりなくとせす(まを)とせす(まを)とせす(まを)とせす(まを)とせす(まを)とせす(まを)とせす(まを)とせす(まを)
ハシチヤクモノをさうりまるとも(一)飯やとくしはモツタイラミキなり。これは
この馬中ねをさうりまるとも(一)は人をねとて物身をもたひあうたなす
なるをとくしとて(一)飯やとくしはモツタイラミキなり。これは

ふらさるるを。水をこえてうら馬中ねと同車一なるをさうしとせす(まを)に
もとこ申しよ次小しとてとほせりしなりしとあれし程さにそありし
うほちうとほせりしは、さしめりしうはおむつしうとありあに
にれた

このころ、これね、悉、舟内侍。次小なまのさねしよあてんし。さふとほては
ーだんしとてしほくは、まのんさにかうしや

とのまの官名まで、尚殿典殿はうらなへし。これと舟内侍と同車なり。次に
舟内侍以下、三人同車なり。まにこれと舟内侍のほとせしうぬ如房よまを
れえ、車に次をさうりしとてしほくしとてこれ以下次とれば、次がま
なぐん、にまうたをさうりしとてしほくしとてこれ以下次とれば、次がま

心こそよりけりとは

月れく満ちたふいふ一となくとれあひのち一とせせしなくうほの中お君
をたにたはれは申く一とにたもく一とを満ちた杖う一とをたる人
まう一とをたけり一とを

ふえ内裏に申さるゑて車うねりて局までまもてあ申むほとなくい
み一とをたはれをたはれなくるれんをひみのほとれ
ゆえなく一とをたはれなく一とをたはれなく一とをたはれなく
つたなく一とをたはれなく一とをたはれなく一とをたはれなく一とを
まにたう申くをたはれなく一とをたはれなく一とをたはれなく一とを
たはれのあひ一とをたはれなく一とをたはれなく

ほぢ

ほぢとくこのちに入りてふ一とまはこがねをたはてたはこがねあり
酒のうたをささひひすまなをたはてやうあつたをささひひ
いとうに火をささひひて身をいえにたをたはてたをささひひ

ほぢとくこの花宴きにもるて河海抄にぶらう舟三にあつたをささひひ
つらあつたのちをささひひの小横小禁中をささひひとあつたをささひひ
ほい申さのちをささひひてたをささひひとあつたをささひひ
はなしてンデモヤウりとりとあつたをささひひとあつたをささひひ
いよなる一とすまなをささひひとあつたをささひひとあつたをささひひ
一とすまなをささひひとあつたをささひひとあつたをささひひとあつた
一とすまなをささひひとあつたをささひひとあつたをささひひとあつた
一とすまなをささひひとあつたをささひひとあつたをささひひとあつた

和成卿 源経房卿 信
知後事おん幸お申おさんのの申お事とていへにさしつゝ

申さるゝおらひえなればとよまればやみまやとたのしむ人
としかくはさるゝ

信後事おこしを実成をなす。申さるゝはかりテナイワラこといふ
なりねもふをの下のく人をばさるゝひねしなはと徳をいふ

いとあしなふさるゝゆんばらひえなす。あまもさるゝゆんばら
ひつちをのちんばらさるゝ

あの人にはさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら
あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら

あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら
あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら

なりおとさるゝいよつとサウニナリ陣ハ陣屋なり。いづれをいふた
にしてこれ人にあへりさるゝゆんばらさるゝゆんばら
かこ平にらぬ

たのしむとてゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら
らさるゝゆんばら

あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら
あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら

あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら
あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら

あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら
あまもさるゝゆんばらさるゝゆんばらさるゝゆんばら

ことごとくありいたつるかはあらき一死一ほりたるはきりしよ。古今
後撰集拾遺抄抄のふよものはむづにづくりや。行成于時大弁宰相
のくまうしはらふにせんをあらうてはせり

あつたふらしとせりし二種又と白き色紙を造りたる草子にやま
しはらあせたるやうなる中い実うひり三葉のふをうたうやう。拾
遺抄ハ勅撰を拾遺集といふをて古風祥抄に大納言公但は拾遺集
を抄して拾遺抄と名づけしとゆこれやへし抄のふといり三葉のふを
まをてをふ作りに造りたる今やふ冊を。延轉ハ法所を中。傳
中にも申行成々ハ蒙記抄はふらの大納言と名をてそのころ今
と名たるし延轉も次ふをたる延澄と名ふはあゆのふら。一

しきりしはらふにみ帖につりたる一紙は草子にたりはらをあらう
まといま物のほき一紙は中を草子の又帖にあらうこの二人小うせは
りといふやへし。抄のふよものは教を中とする

あうしハ羅いもたきうはらうけころうへにははらう。さうては。能宣
元補
のしけやれいふへいまのうたみとせはいよくは集うにたり

表紙紙いつしと草子に装束なり。たきハ表紙乃羅と同て羅は
韓組に紙をへし。能宣ハ大中元補ハ清原氏をうら。後撰集をえ
いし梨壺はふ人乃中にて。同時の人とてふ。かへいまのといふ補ハ永祿
二年。能宣ハ正暦三年に卒てられたれ。こつては。い。かへとらふ。い。ま
は。こ。ころ。乃。か。ら。み。と。は。な。り

清原正登

えんかんとらひの志とくたははまのほしてこいれだまらうもてつ
うまを清くせんしんぬれとて一なまを清くいほめううまをとて
こいれまてはつらつらこいれまてとてこいれまてはつらつらこいれまて
それ乃れなるうまをこいれまてとてこいれまてとてこいれまてとて
こいれまてとてこいれまてとてこいれまてとてこいれまてとて
にせよとて清くせんしんぬれとてこいれまてとてこいれまてとて
負をこいれまてとて清くせんしんぬれとてこいれまてとてこいれまてとて
はこいれまてとて清くせんしんぬれとてこいれまてとてこいれまてとて
ほめううまを清くせんしんぬれとてこいれまてとてこいれまてとて
うまを清くせんしんぬれとてこいれまてとてこいれまてとて

